

平成 23 年 8 月 25 日

全国医学部病院長会議

会 長 森山 寛

副会長 中谷 晴昭

学生の学力低下問題に対するワーキンググループ

座 長 吉村 博邦

学生の学力低下問題に対する WG 調査結果について

全国医学部長病院長会議

## 1. WG 調査結果の要点

- ① H20 年以降の入学定員増を契機に、1 年次および 2 年次学生の留年者が有意に増加。この増加は、定員増の比率以上に増加。休学者、退学者も増加傾向にある。
- ② 定員増以前の学生の留年者(1~6 年)は一定のまま推移している。また、定員増と無関係の 4 年次の共用試験の成績、6 年次学生の在籍者数、国試合格率等は、過去 5 年間ほぼ一定で推移している。
- ③ 入試合格者のセンター試験、一般試験の平均点、最低点は、定員増以降いずれも低下。
- ④ 予備校の模擬試験の最終合格者の偏差値(国公立 50 校)が、定員増以降有意に低下。

留年者は、当該年次の進級試験の不合格者であり、進級に値する知識・学力が不足している学生であり、定員増に伴う入試の成績の低下を反映したものと考えられる。

## 2. 入学定員増について

平成 20 年以降、過去 4 年間で、医学部入学定員は 1,298 人の増員が図られた。今回の増員によって入学の門戸が大きく広がったことから、以前なら入試に不合格となったであろう、ほぼ増員分に相当する志願者が医学部への入学を果たしたことになる。

## 3. 医学部入学者に必要な資質

いうまでもなく、入学者の偏差値が高ければよいというわけではない。とりわけ医学部入学者には、高い倫理観、病める人に共感できる豊かな人間性、強い責任感や使命感など、学力以外の多くの重要な資質が必要であることは論をまたない。

また、日々増加する膨大な量の医学知識や最新の技術や技能を学習し、修得し、また、それを広く患者に適応するには、生涯に亘って自己研鑽を行う不断の努力が必要であり、幅広い基礎知識とともに、理解力、記銘力、判断力、応用力など、一定レベルの高い知的能力が求められる。

## 4. 志願者の入学難易度

我が国の 18 歳人口は、S41 年の 249 万人をピークに減少傾向にあり、H23 年には 120 万人となっている。一方、入学定員は、S40 年代の約 3,500 人から、H23 年は 8,923 人となっており、以前は、18 歳人口の 700 人に 1 人の医学部入学者であったものが、今や 130 人に 1 人が医学部に入学する時代を迎えている。すなわち、医学部入学の難易度は以前の 5 分の 1 以下にまで低下している。

今後、出生数のさらなる低下にともない、現状の入学定員のままでも、いずれ、100 人以下に 1 人の入学者となることが予測される。

今後、更なる急激な定員増、あるいは、医学部新設によって、学力を含めた医学生としての資質に問題のある学生が増えてくれば、医学教育に携わる教員の負担はさらに増加するばかりでなく、将来の我が国の医療を担う医師の質の低下にも繋がりがねないことが強く危惧される。

全国医学部病院長会議としては、改めて、医学部の新設に強く反対を表明する。